令和６年５月作成

中津川市土砂災害ハザードマップ

「命を守る」避難のしかた

土砂災害ハザードマップについて

　このハザードマップは、台風、大雨などにより水害（河川氾濫等）や土砂災害の発生の危険性が生じた場合に、注意すべき危険区域、避難のための施設などをとりまとめたものです。
　水害や土砂災害から自分や家族の命を守るため、家族で避難先や避難行動、防災対策を話し合うなど、日頃から災害に備えてハザードマップを活用しましょう。
　災害が発生するおそれのある場合は、市役所から避難情報が出されますが、情報待ちすることなく、市民の皆さんが自身に危険を感じたら、自主的に避難してください。

お問い合わせ先

中津川市 NAKATSUGAWA CITY
防災安全課
〒508-8501
中津川市かやの木町２番１号
TEL：0573-66-1111

避難マップを作成しよう

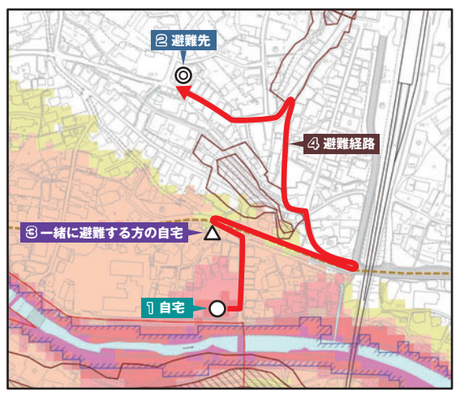
次の手順にしたがって、自分の避難先（安全な場所）と避難経路をきめ、自分だけの「避難マップ」を作成しよう。

1 自宅が安全か確認しましょう。
・自宅に「○」をつけましょう。
・地図の着色を見て、土砂災害や水害がどの程度危険か確認しましょう。

2 自分や家族を守るのに必要となる避難先をきめましょう。
・自宅で安全が確保できない場合、ハザードマップで土砂災害や水害の危険が無い、もしくは危険が少ない避難先を選び「◎」をつけましょう。

3 一緒に避難する方の自宅を確認しましょう。
・声を掛ける方や友人、知人、高齢者、身体の不自由な方など、一緒に避難する必要がある方の自宅等に「△」をつけましょう。

4 安全な避難経路を確認しましょう。
・自宅から、一緒に避難する必要がある方の自宅等を経由して、避難先まで行く道順を「→」で記入しましょう。



●次のような危険箇所がないかチェックして、安全なルートを見つけておきましょう。歩いて確認しておくと効果的です。
□冠水しやすい道路　□高齢者らが避難しづらい坂道や階段　□蓋のない側溝　□土砂崩れが起きそうな場所　□川の近くのルート　□倒れそうなブロック塀や建物
●どうしても避難経路が危険箇所を通ることになってしまう時は、身動きがとれなくなる前に、早め早めの避難を心がけましょう。

あなたがとるべき避難行動は？（避難行動判定フロー）

ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。
災害の危険性が高まった時は、自分や家族の命を守れるよう、事前に自宅や周辺の危険箇所ととるべき行動を確認しておきましょう。
※着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

自宅がある場所は、ハザードマップで色が塗られているか？
- いいえ → **自宅に留まり安全を確保する（屋内安全確保）**
  ※色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの情報を参考に、必要に応じて避難しましょう。
  ★土砂災害（特別）警戒区域に入っている場合は、立ち退き避難を優先
- はい ↓

災害の危険があるため、原則として自宅の外に避難が必要です。

例外　土砂災害（特別）警戒区域外に自宅がある方で、浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高い場所を確保でき、１階部分が鉄筋コンクリート造の建物である
③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食料などの備えが３日以上ある
場合は、自宅に留まり安全を確保することも可能です。

↓

自身または一緒に避難する人は、避難に時間がかかる人（高齢者・障がい者・乳幼児）か？

- はい ↓
  屋内安全確保ができる場所に住んでいて頼ることのできる親戚や知人はいるか？
  - はい ↓ **警戒レベル３**が出たら親戚宅や知人宅などに避難
  - いいえ ↓ **警戒レベル３高齢者等避難**が出たら避難所に避難
- いいえ ↓
  屋内安全確保ができる場所に住んでいて頼ることのできる親戚や知人はいるか？
  - はい ↓ **警戒レベル４**が出たら親戚宅や知人宅などに避難
  - いいえ ↓ **警戒レベル４避難指示**が出たら避難所に避難

※地域の集会施設を避難所として開設している場合もあります。地元の自主防災会長へ確認しましょう。

災害の危険がある区域を知ろう

●土砂災害

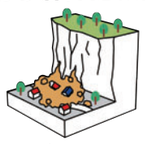
この土砂災害（特別）警戒区域は、土砂災害により被害の恐れのある箇所の地形や土地利用状況などの基礎調査を基に県が指定した区域を表示しています。

土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）
土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）
土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域

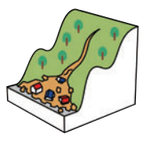
土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）　地図の凡例（　）



雨などの影響によって、土の抵抗力が弱まり、急激に斜面が崩れ落ちる現象。ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高い。
前兆現象　・がけから小石がパラパラと落ちてくる　・がけにひび割れが見える　・がけから水がわき出ている

土石流　地図の凡例（　）



山腹や渓床を構成する土砂石礫の一部が雨などによって水と一体となり、一気に下流へ押し流される現象。流速 20 ～ 40km/h で一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまう。
前兆現象　・雨が降り続いているのに川の水位が下がる　・急に川の流れが濁り流木が混ざっている　・山なりがする

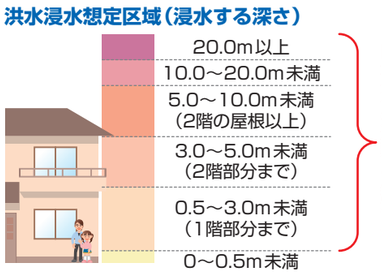
地すべり　地図の凡例（　）

斜面の土塊が地下水などの影響により、すべり面に沿ってゆっくりと斜面下方へ移動する現象。一般的に広範囲におよび移動土塊量が大きいため甚大な被害をおよぼす可能性が高い。
前兆現象　・沢や井戸の水が濁る　・地面にひび割れができる　・斜面から水がふき出す
雨が上がった後も注意
地すべりは地下に水がしみ込んで起こるため、雨が上がった後に発生する事があります。地すべりが起こりやすい所に住む方は、雨が上がった後も注意しましょう。

●水害

この洪水浸水想定区域は、令和元年６月に岐阜県より公表された洪水浸水想定区域図・水害危険情報図を基に、想定し得る最大規模の降雨を前提とした河川ごとの浸水データを重ね合わせ、複数河川の洪水浸水想定区域が重なる区域においては、被害想定の最大値にて合成して作成した洪水浸水想定区域に避難所等の情報を重ね合わせて作成したものです。

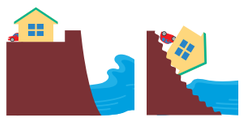
洪水浸水想定区域（浸水する深さ）



家屋倒壊等氾濫想定区域　地図の凡例（　）
（早期に区域外へ避難が必要です。）

●氾濫流
流速が早いため、木造家屋は倒壊する恐れがあります。

●河岸侵食
地面が削られ家屋は建物ごと崩落する恐れがあります。



避難情報と行動の種類を知ろう

河川の水位	★参考情報　国や県が発表：防災気象情報（警戒レベル相当情報）／水位情報	気象情報	市が発令：警戒レベル	避難情報	市民のみなさんがとる行動
氾濫発生 氾濫開始相当水位	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報	5	緊急安全確保	災害が発生・切迫し、極めて危険です。命を守って!!少しでも浸水しない高い場所（例：2 階以上）や土砂災害の危険が少ない場所（例：斜面と反対側）へ！
				～ 警戒レベル４までに必ず避難!! ～	
氾濫危険水位 避難判断参考水位 いつ氾濫してもおかしくない危険な状態	4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報	4	避難指示	危険な場所から、速やかに全員避難してください。避難先への移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難してください。
避難判断水位 一定時間後に氾濫の危険がある状態	3相当	氾濫警戒情報	警 報	3	高齢者等避難	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は、避難してください。その他の人も必要に応じ、外出等の普段の行動を見合わせたり、危険を感じたら自主的に避難してください。
氾濫注意水位 水位の上昇が見込まれる状態	2相当	氾濫注意情報	注意報	2		避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
水防団待機水位 水防団が水防活動の準備を始める目安	1相当		早期注意情報	1		気象情報などをチェックし、災害への心構えを高めましょう。

平常時の水位

※自分の命を守れるのは自分自身です。市からの避難情報を待たず、早めに避難してください。
※天気は急変するため、避難情報は、警戒レベル１～５の順番で発令されるとは限りません。

情報を収集しよう

中津川市は、次の流れ図に従い、情報の伝達を行います。

岐阜県・気象庁 → 中津川市 → 防災行政無線（エリアトーク・戸別受信機）／電子メール・LINE／広報車・消防車／テレビ・ラジオ・インターネット／緊急速報メール → 市民のみなさん

避難情報 → 気象情報など →
※屋外放送は大雨や地理的条件などで聞こえにくい場合があります。
放送内容を聞き直す場合…☎0573-65-0370

情報を入手しましょう!!
登録することで中津川市からの情報を受け取ることができます。
市民安全情報ネットワーク　LINE

気象庁 HP（気象情報、キキクル）
岐阜県総合防災ポータル（避難情報、避難所開設状況）
ぎふ土砂災害警戒情報ポータル（土砂災害の危険度判定）
岐阜県川の防災情報（河川の水位、雨量）
中津川市防災 HP（情報全般）

わが家の防災メモ

高齢者や障がい者、乳幼児は１人では避難できません。一緒に避難する人、持ち物、避難にかかる時間を書き出してみましょう。
記載する内容は日中、夜間、災害の種類などの状況によって変わります。家族みんなで、いろいろな状況を想定して考えてみましょう。

1. 誰と避難する？

家族はもちろん、近所の方、体の不自由な方など一緒に避難する人の名前と連絡先を記入します。

名　前	連　絡　先	避　難　先

※NTT や携帯会社が災害発生時に提供する、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害伝言ダイヤル」を活用しましょう。QR コードのリンク先「安否の知らせ方」で内容を確認できます。

2. 何を持って避難する？

避難生活で必要なものを記入します。大きさ、重さなど、本当に持てるかを事前に確認します。
避難の際に両手が使えるよう、リュックなど背負えるものに準備しましょう。

家で備えておくもの　推奨：１週間　最低：３日分
□**飲料水**
１日１人３リットルを目安
□**食料品**
レトルト食品、アルファ化米、缶詰、インスタントラーメン、お菓子、バランス栄養食など
※乳児がいる家庭は、粉ミルク、離乳食など
□**衛生用品**
ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、救急箱、マスク、生理用品、携帯トイレ、体温計、除菌スプレーなど
※乳児がいる家庭は、紙おむつ、お尻ふきなど
□**生活用品**
マッチ、ろうそく、カセットコンロ、給水用ポリタンク、懐中電灯、乾電池、軍手、ゴミ袋など

非常用持ち出し品
□**飲料水**
□**非常食**
カップ麺、缶詰など
□**貴重品**
現金（小銭を多めに）、預金通帳、印鑑、保険証・免許証のコピー
□**衛生用品**
救急箱、薬、マスク、ウェットティッシュ、替えの下着、生理用品など
□**生活用品**
懐中電灯、ラジオ、タオル、寝袋、乾電池、携帯電話の充電器、ヘルメット、雨具など
※季節により、カイロ、蚊取り線香など

POINT　ローリングストック
普段自宅で利用しているものを少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足す方法を活用しよう。

3. 避難するときは

避難の心得
① 火元を確かめ、ブレーカーも切る。
② 荷物は最小限に。
③ 外出中の家族には連絡メモを。
④ 避難は基本的に徒歩で。
⑤ お年寄りや子どもの手はしっかり握って。
⑥ 隣近所に声をかけあって、早めの行動。
⑦ 避難先へ移動するとき、狭い道、塀ぎわ、川べりなどは避ける。
⑧ 避難は事前に決めた避難先へ。

避難するときの服装
　避難するときは混乱防止のため決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。とくに乳幼児、高齢者、病人、身体の不自由な人を安全に避難させるために日頃から十分な対策を立てておきましょう。
　また、災害時に車やオートバイで避難すると、避難先やその周辺が車で混雑し、かえって避難が遅くなります。救護活動もできなくなってしまいますので、なるべくやめましょう。

4. 避難のタイミング

基本は、早め早めの避難です。避難にはさまざまなパターンがあり、外に出るより自宅にいる方が安全な場合もあります。
いつ避難を開始し、いつまでに完了するか、どこから情報を得るか等家族で決めて必要な内容を書き込もう。

気象情報		注意報	警 報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報
水位情報		氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
避難情報			レベル３（時間がかかる人は避難） 高齢者等避難	レベル４（全員避難） 避難指示	レベル５ 緊急安全確保
いつ何をする？	日中の避難	（例）気象情報に注意する	（例）避難準備を始める　（例）避難開始	（例）避難完了	レベル５になる前に必ず避難を完了しましょう
	夜間の避難	（例）避難準備を始める	（例）避難開始	（例）避難完了	